

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201294
法人名	医療法人かとう内科
事業所名	都市型グループホーム『ゆう』
所在地	愛媛県今治市立花町2丁目9-35
自己評価作成日	平成25年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>母体が医療機関である為利用者さんの体調不良や急変などにもすぐに対応できます。小、中、高校があり行事に参加できます。同じくスーパーが近くにあり、いつでも買物が出来ます。敷地内に畑があり四季の花や野菜の収穫や観賞が楽しめます。家族の希望があれば看取りも可能です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所には、現在3名の看護師資格を持つ職員がおられ、点滴、酸素、痰吸引の対応ができるようになっていて、又、急変時には、協力医が来てくれるようになっていて、散歩時には、近所の方とあいさつを交わしたり、時には野菜を届けてくださる方もいる。近隣の工業高校の運動会には、生徒がプログラムを持って案内に来てくれ、6名の利用者が応援に行かれた。当日は、テントや椅子を用意してくださっており、生徒があいさつしてくれたり、お茶をいただく等して気遣ってくださった。 毎年、地域の防災訓練に参加しておられ、今年は職員が2名参加して地域の方と協力しながらバケツリレーを体験された。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 都市型グループホーム『ゆう』

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 浅海 由美子

評価完了日

平成25年10月1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 和やかな雰囲気が作れるよう職員間で共有し実践すべく努めている。 (外部評価) 事業所の理念、「話しやすく、和やかな雰囲気づくり」を廊下や相談室に掲示されている。又、職員がリーダー研修を受講されたことを機に、「落ち着いて、笑顔でコミュニケーションをはかります。」という目標を立てておられた。すべての職員で目標を意識して取り組むことで、利用者や職員の笑顔が多く見られるようになったと成果を感じておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域カルチャーセンター、各学校などの行事にはできるだけ参加するようにしている。 (外部評価) 散歩時には、近所の方とあいさつを交わしたり、時には野菜を届けてくださる方もいる。近隣の工業高校の運動会には、生徒がプログラムを持って案内に来てくれ、6名の利用者が応援に行かれた。当日は、テントや椅子を用意してくださっており、生徒があいさつしてくれたり、お茶をいただく等して気遣ってくださった。年末の餅つきの時には、近所のお宅で子どもがいるところを中心にお誘いの声かけをされたが、参加にはつながらなかったようだ。お餅は、近所の方にもおすそ分けされ、後日「おいしかった」「ありがとう」と声をかけていただいたようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居者のご家族に対しては出来ていると思うが、地域の方々には出来ていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に出席された自治会長さんや民生委員のご意見を、スタッフ間で回覧しサービスの向上に努めている。	管理者は、地域の方に「グループホームがどのようなものが具体的に知ってもらいたい」と考えておられる。今後さらに、会議のあり方やすすめ方等も工夫して、いろいろな方が参加しやすい会議に向けて工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 会議時には、事業所から活動や利用者の様子を報告して、質問や感想、要望を聞いておられる。自治会長からは、文化祭等の地域行事等を教えてもらっている。会議は、平日の10時から1時間程実施されている。ご家族には、会議日時をお知らせして参加を呼びかけ、又、近隣の方や消防団の方にも参加を呼びかけられたが、参加に結びつきにくいようだ。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 中央包括支援センターから運営推進会議に参加して頂き、助言を頂いたり、利用者さんのことでも相談をしたりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、利用者の金銭管理について市の担当者に相談して、成年後見制度の利用につながった事例がある。又、民生委員の方には、地域の高齢者の支援の事例等も教えていただき参考にされている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ご家族の了承のもとで安全の為のやむを得ない軽度な身体拘束以外はしないことを基本としている。	利用者の自由で安全な暮らしを支援することがグループホームの特徴でもあり、身体拘束や拘束することでの弊害について、職員やご家族とも一緒に勉強するような機会を作ってみてはどうだろうか。今後さらにケアの工夫について話し合いを重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 玄関は、オートロックで利用者は開けることができないが、お天気の良い日や夏場には開放されている。昨年の外部評価実施後、ご家族にオートロックについて意見を聞くことに取り組まれた。ご家族からは「あったら安心」「あるから安心して預けられる」という意見もあったようだ。現在、転倒やふらつきが多く見られる利用者が車いすを使用する際、職員の見守りが難しい時には、安全ベルト使用するようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	研修などには積極的に参加しパンフレットなどで社内研修も行い虐待の防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	在宅介護研修センター等の研修に積極的に参加するようにしている。必要のある利用者や家族には市の関係者に詳しく説明をしてもらう等の支援を行なっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	入所時にご家族に重要事項説明書と契約書をお渡しし説明を行なっている。分からないことは随時、質問を受け不安や疑問に対して説明し理解・納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	ご意見及び要望に関しては出来るだけ運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価)	ご家族の来訪時に、利用者の状態を報告されたり、県外に住むご家族には、毎月書面にて報告し、意見を聞くようにされている。12月にはご家族と一緒に忘年会を行っておられ、おやつを食べたり、ゲームや歌をうたって、利用者と一緒に楽しい時間を過ごせるよう計画されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送り時及び月1回のカンファレンスの際話し合い、決定したことを実践、反映させている。	
			(外部評価) 利用者の身体レベルの低下に伴い、以前より外出することは減ったようだが、「天気の良い日には中庭のテラスでおやつを食べてはどうか」と職員から提案があり、利用者に少しでも外気にふれてもらえるように、おやつを楽しむ機会を作っておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修、受講の際には優先的にシフトを組むように指示されており、各資格を取得した時はそれに応じた報酬を頂いている。	
			(外部評価) 職員の研修受講の要望に合わせたシフト管理で県在宅介護研修センターの講座を始め自主的に受講している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 他のグループホームとの相互研修で意見交換を行なっている。	
			(外部評価) ご本人、ご家族の要望はもとより、課題分析など、基本情報を把握した上での関係作りに努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式シートに記入して頂き、施設で生活する上での今後の希望や不安を聴き取りながら関係づくりに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同法人のDrや居宅介護支援専門員との連携を取りながら、必要な支援を見極め、対応に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) たとえ時間がかかっても、うまく出来なかったとしても、その人に合った出来ることをして頂き、出来にくい事は一緒にするよう支援している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会に来られた際、介護記録を見ていただいたり、最近の様子をお伝えし情報を共有している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 生まれた家へドライブに行ったり、友人・知人の方が面会に来られた際は丁寧に対応させて頂いている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には、利用者についての職員の気付きや楽しかったエピソード等をお話することを心がけ取り組まれており、ご家族が事業所に足を運ぶ回数が増えることにつながっているようだ。利用者の「お墓参りに行きたい」という気持ち等についてもご家族に伝えるようにされている。友人が訪ねて来られた際には、居室でゆっくりお話できるように気配りされている。郵便局でお金を引き出せるよう職員が同行して支援している方は、車まで局員が来てくれて対応してくれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に長く過ごされるリビングでの席の配置もスタッフ同士で話し合い、歌やボール遊びを通してベストな関係でいられるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 不慮の事故及び体調悪化などの理由により入院された方に出来るだけ面会に行き、お話を聴くよう心掛けている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 落ち着いた時間にゆっくりとご本人の思いを聞き、可能な限り希望に沿うよう話し合い努力している。 (外部評価) 入居時には、センター方式をアセスメント様式を用いて、ご家族から生活歴や習慣についての情報を集めておられる。又、日々の会話の中の「ふるさとに帰りたい」「遠くにいる親類に会いたい」等のお話から利用者の思いや意向の把握に努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 病院からの看護サマリー、居宅からのフェイスシート、センター方式等の資料とご家族、ご本人の話などで把握している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送り時などに一人ひとりの現状についてスタッフ間で情報を共有し、どう支援するべきか話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族、ご本人の希望を聞き、現状に即した介護計画を作成し、個別のサービス計画を介護記録の表紙に貼り、スタッフが記録する際すぐに見れるようにしている。 2ヶ月ごとにモニタリングを行なっている。	利用者のこれまでの暮らしぶりや好み、習慣等の情報を活かして利用者主体の暮らしを支援できるような介護計画に工夫されてみてほしい。
			(外部評価) 介護計画は、2ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直すようになっていく。作成された介護計画は、協力医に確認してもらうようになっており、身体機能の維持向上に向けたケアへの注意点やアドバイスをもらうようになっていく。「夜ぐっすり眠りたい」利用者には、レクリエーションへの参加等、日中体を動かし活動できるような支援内容を盛り込んでおられた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録以外にも、変化や気付きは別の日誌に記入し、毎日の申し送りなどにより情報を共有した上で介護計画の見直しに活かしている	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) スタッフのアイデアや持っている特技、技能を活かし、臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公園、図書館などを利用し学校、カルチャーセンター等、地域の行事にも参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			希望のかかりつけ医に受診、送迎している。かかりつけ医の無い方はかとう内科に受診している。	
			(外部評価)	
			協力医が月2回、往診に来てくれている。又、認知症専門医の受診を希望される方には事業所から紹介されている。事業所には、現在3名の看護師資格を持つ職員がおり、点滴、酸素、痰吸引の対応ができるようになっている。又、急変時には、協力医が来てくれるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			朝夕の申し送り時はもちろん、気付きなどはその都度報告、相談している。	
			(外部評価)	
			母体の病院とは、常に情報の交換、相談など関係者との関わりも密にできている。他の医療機関とは必要に応じて連絡をとっている	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			(外部評価)	
			重度化した場合、及びターミナルケアについては、ご本人、特に家族と話し合い方針の共有化を図っている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			(外部評価)	
			入居時、管理者は、利用者やご家族に「事業所でも病院でも看とりを支援することが可能である」ことを説明されている。又、状態変化時、医師から利用者の状態について説明があった折には、管理者が今後のことについての希望を聞いておられる。看とりを支援された際には、ご家族は頻回に来訪されたり、泊まったりして一緒に看とられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 不定期ではあるが、在籍する看護師から指導をうけたり、各自が研修にも参加している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行い、全職員が対応できるよう説明し、防災用品も1F、2Fに置いている。尚、防火対策以外の風水害、地震対策マニュアルについても作成中。 (外部評価) 年2回、避難訓練を実施しておられ、その内、1回は消防署の立ち合いのもと訓練を行っておられる。火災時には、協力いただけるよう、近所の4軒のお宅にお願いされており、又、近所の住む職員が駆けつけるようになっている。毎年、地域の防災訓練に参加しておられ、今年は職員が2名参加して地域の方と協力しながらバケツリレーを体験された。	今後は、夜間の火災を想定した避難訓練を計画されている。災害はいつ起こるかわからないことでもあり、今後さらに、消防署や地域の方達とも協力し合っているいるな場面を想定して繰り返し避難訓練に取り組みしてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけ、対応に留意している。 (外部評価) 調査訪問時、トイレ使用後の利用者に職員は、何気なく話しかけながらズボン等、身なりを整えておられた。耳の聞こえにくい利用者の方には、耳元で話しかけておられた。お昼の時間帯のドラマを楽しみにしておられる方は、その時間帯はテレビを見ながら食事をされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定を促し、希望に沿った支援をするよう心がけているが、入浴についてはできるだけ入っていただくよう勧める時もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 強制することなく、ほぼ自由に過ごして頂いている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 起床時の整容、衣服の選択など、希望に応じた支援をして いる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいものを聞き、喜んで食べて頂けるメニューを工夫し たり、野菜の下ごしらえやお盆拭きなどは、その人に合った 作業をして頂いている。	
			(外部評価) 母体病院の栄養士が立てた献立をもとに、職員が食事を 作っておられる。魚、肉、乾物、米は専門店から配達してもら い、近所の方からいただいた野菜や事業所の畑で採れた野 菜等も使用されている。利用者からは麺類の希望が多く、 又、お寿司が人気で、ちらし寿司や巻寿司等、週に1回献立 に採り入れられている。調査訪問時の昼食のお寿司を食べ ながら利用者は、「ここのお寿司はおいしいんよ」と感想を話 してくださった。又、職員がお代りをすすめると、「まだある で。ちょうだい。」とおかわりされる利用者もおられた。食後等 に台拭きをしてくださる利用者がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分摂取量を毎回記録したり、同法人内の栄養士 から栄養指導を受けつつ個々に栄養バランスを考えて個々 に応じた支援をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは欠かさず行い、出来ない方はスタッフが 介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			自立していない方は排泄管理表をもとに、その人に合った間隔で誘導し紙パンツから布パンツへ、パットからナプキンへ等の自立支援を行なっている。	
			(外部評価)	
			筋力低下を防ぐ取り組みにもつながるよう、利用者がトイレで排泄できるような支援に力を入れて取り組まれている。利用者の排泄パターンを把握し、個々に応じた誘導で支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			排泄管理表をチェックし、排便のない方は先ずヨーグルトなどの食べ物による自然排便を心がけている。1日2回の体操、天気の良い日の散歩も行なっている。	
			(外部評価)	
			毎日入りたい方は毎日、特に希望のない方は2日に1度の入浴を強制にならないよう勤めている。基本的には午後からが入浴時間になっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			毎日2～3名づつ入浴できるよう支援されている。現在、車椅子を使用する利用者はシャワー浴で対応されている。	
			(外部評価)	お風呂がお好きな利用者もおられ、これまでの入浴の習慣や好みをもとに、利用者の状態を踏まえ、ご家族の希望等もお聞きしながら気持ちよく入浴できるような支援に、工夫を重ねていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			自由に休息、睡眠はして頂いている。介助が必要な方は希望に応じ、くつろいで頂くよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 新しく処方された薬について、その都度ネット検索や本により、目的、副作用の情報を共有し、症状の変化にも注意している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物干し、たたみ。新聞折り。音楽鑑賞、レクリエーション、ドライブ、散歩、畑での収穫、忘年会、運動会などを実施している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 極端に暑い日、寒い日、雨天以外は近所を散歩したり、ドライブにも出かけている。 年、2～3回のミニ旅行も実施している。	
			(外部評価) 天気の良い日には事業所周辺を散歩されたり、近所のスーパーに果物やお菓子を買に行かされている。外出行事の予定をご家族に伝えておられた時には、現地で待ってくださっており、利用者をご家族と一緒に過ごされたこともあったようだ。職員は、買い物に行く時に利用者をお誘いするが、「めんどい」と言われることもあり、買って来てほしいものを頼まれることもあるようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じてお金を所持したり、使えるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は自由にして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			換気はこまめに行い、エアコン、床暖による空調管理をしている。 廊下に写真や折り紙作品を飾ったり花でなごまれるよう工夫している。	
			(外部評価)	
			玄関には、地域の文化祭で展示する予定の、利用者と一緒に作ったバリーさんの折り紙工作が飾られていた。廊下には、ちぎり絵も飾られている。中庭で植物に水やりをされる利用者もおられる。事業所入口の横の畑で、利用者は野菜の収穫等されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			リビングでの座席の配置は、利用者同士の様子を見ながら必要な場合は適宜変更している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			昔の写真や、お好みの小物を置き、居心地よく工夫しており、換気もこまめに行っている。	
			(外部評価)	
			窓からベランダに出られる居室もあり、調査訪問時お天気もよく布団を干しているところもみられた。馴染みのラジオや鏡台、TVを持ち込んでいる方もいる。カレンダーにその日の天気を書き込む事を日課にされている方もおられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			居室やトイレが分りやすいように大きな字で書いた貼り紙をするなどの工夫をしている。	